

平成 20 年 7 月 14 日

各 位

本社所在地 京都市下京区中堂寺粟田町 93
 会社名 オプテックス・エフエー株式会社
 代表者名 代表取締役社長 小國 勇
 (コード 6661 大証ヘラクレス)
 問合せ先 取締役 管理部統括
 坂口 誠邦
 (TEL 075-325-2930)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ平成 20 年 2 月 12 日に公表した業績予想を下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 連結業績予想数値の修正

(1) 平成 20 年 12 月期中間連結業績予想数値の修正 (平成 20 年 1 月 1 日～平成 20 年 6 月 30 日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	1,950	230	240	140	5,618 円 88 銭
今回修正予想 (B)	1,820	165	180	85	3,411 円 46 銭
増減額 (B-A)	△ 130	△ 65	△ 60	△ 55	—
増減率 (%)	△ 6.7	△ 28.3	△ 25.0	△ 39.3	—
ご参考：前期中間実績 (平成 19 年 12 月期中間)	1,844	275	293	200	8,198 円 69 銭

(2) 平成 20 年 12 月期通期連結業績予想数値の修正 (平成 20 年 1 月 1 日～平成 20 年 12 月 31 日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	4,000	510	530	320	12,843 円 15 銭
今回修正予想 (B)	3,800	340	370	220	8,829 円 67 銭
増減額 (B-A)	△ 200	△ 170	△ 160	△ 100	—
増減率 (%)	△ 5.0	△ 33.3	△ 30.2	△ 31.3	—
ご参考：前期実績 (平成 19 年 12 月期)	3,625	458	487	307	12,527 円 44 銭

2. 修正の理由

【中間期の業績予想】

①中間期の売上高減少の理由

海外市場向けは、欧州向け（主として SICK AG 社向け）は汎用光電センサを中心に好調でありましたが、北米向けが景気減速による設備投資抑制の影響で主力の汎用光電センサの売上が伸び悩んだこと及び中国向けアプリケーション機器が企業間競争が増す中、売上が計画を下回る結果となりました。また、国内市場においても汎用光電センサ及びアプリケーション機器の一部が電機、半導体、自動車メーカーにおける設備投資抑制の影響により伸び悩んだことと子会社において高機能画像処理システムの受注・納入が顧客における購入決定までのリードタイムが長くなったことで当初の予想値を 6.7% 下回る見込みであります。

②中間期の営業利益・経常利益・当期純利益減少の理由

売上高が予想値を下回ったことによる粗利益額の減少と部品価格の上昇による原価アップ並びに子会社における営業損失の計上により営業利益で 28.3%、経常利益で 25.0%、当期純利益で 39.3%それぞれ当初予想値を下回る見込みであります。

【通期の業績見通し】

下半期においては欧州向け汎用光電センサは上期に続き好調に推移し、アプリケーション機器の新機種の新市場投入、画像センサの国内のみならずアジア、北米地域への拡販と同業他社との協業による電子部品、機械メーカーといった新規顧客の開拓に注力してまいります。国内・北米はもとより新興国においても原油高、資源高の影響で景気減速が強まる中、今しばらくは各製造メーカーにおける設備投資が横ばい、あるいは減速することも想定され、下半期における国内、海外（SICK AG 社向けを除く）の汎用機器、アプリケーション機器及び高機能画像処理システムの売上の見直しを行った結果、通期の連結業績予想についても上記のように修正することといたします。

なお、1株当たりの中間・期末配当金予想につきましては、当初発表どおりであります。

ご参考：平成 20 年 12 月期の中間・期末配当予想数値

	1株当たり年間配当金		
	中間	期末	
平成 20 年 2 月 12 日発表	1,300 円	1,300 円	2,600 円
前期（平成 19 年 12 月期）実績	—	2,500 円	2,500 円

以上